

こんにちは。文化財課の児玉です。全国的に新型コロナウイルスの感染が落ち着き、世界遺産となった小牧野遺跡でも来訪者が多く見られるようになりました。

今回は、世界遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」のうち青森県の縄文後期～晩期に属する4遺跡の概要を紹介します。

#### ○史跡小牧野遺跡（青森県青森市）

【年代】紀元前2,000年頃（約4,000年前）

本市が所管する遺跡です。八甲田山西麓に広がる台地上に立地し、縄文後期前半の環状列石を主体とする祭祀遺跡です。環状列石は、中央帯、内帯、外帯の三重で、一部四重となり、全体で直径55mに及ぶ国内最大級の大きさを誇ります。環状列石やその周辺の捨て場からは、土偶やミニチュア土器、400点を超える三角形岩版などの祭祀遺物が多数出土しています。



小牧野遺跡の環状列石

#### ○史跡大森勝山遺跡（青森県弘前市）

【年代】紀元前1,000年頃（約3,000年前）

岩木山麓の丘陵上に立地し、大規模な環状列石を伴う縄文晩期前半の祭祀遺跡。環状列石は、盛土した円丘の縁辺部に77基の組石を配置して円環を築いています。環状列石及びその周辺からは円盤状石製品が大量に出土しています。

#### ○史跡亀ヶ岡石器時代遺跡（青森県つがる市）

【年代】紀元前1,000年～紀元前400年（約3,000～2,400年前）

海進期に形成された古十三湖に面する縄文晩期の大規模な共同墓地。台地上に多数の墓が構築され、その周囲の低湿地からは芸術性豊かな大型遮光器土偶をはじめ、漆塗り土器や漆器などが多数出土し、精緻で複雑な精神性を示しています。

#### ○史跡是川石器時代遺跡（青森県八戸市）

【年代】紀元前1,000年頃～紀元前400年頃（約3,000～2,400年前）

中居、一王寺、堀田の3つの遺跡から構成されています。なかでも、縄文晩期の中居遺跡は多様な施設を伴う集落であり、土器・土偶、弓やヤスなどの木製品、漆塗りの櫛などの漆製品が出土し、河川流域における生業や高度な精神性を伝えています。